

開講日時： 2019年7月10日（水曜）18:00~19:30（目安です）

開講場所： 酪農学園大学研修館（国道12号から附属動物医療センターに向かう道の途中にあります）

題名： 野生猛禽類の医療と防疫の現状について

講演者： 齊藤 慶輔 先生 [猛禽類医学研究所（代表）、日本野生動物医学会（理事）]

齊藤先生は、日本獣医畜産大学（現・日本獣医生命科学大学）在学中から、スコットランドにおけるオジロワシの野生復帰計画に参画、米国ミネソタ州立大学の猛禽類センター等で獣医学的な研修を積まれた後、2002年に同大学を卒業された。1994年、調査研究員として環境省釧路湿原野生生物保護センターでの活動を開始、2005年、国内唯一の猛禽類医学専門機関となる猛禽類医学研究所（環境省指定施設）を設立、現在、同所代表に就任されている。同所にはフルタイムの獣医師が齊藤先生を含め5名（本学寺岡ゼミ出身の新人含）、動物看護師（本学郡山ゼミ出身）も勤務し、齊藤先生はじめスタッフは国内外で猛禽類の救護と保護で日々活躍している（下記、北海道新聞2014年7月9日朝刊参照）。その傍ら鳥類臨床を目指す数多学部生・院生（本学）の実習も受け入れて頂き、獣医学教育にも貢献されている。前回、5月の野口先生の特殊講義で言及されたように、日本の獣医学では鳥類医学の教育・研究が立ち遅れている。今回は齊藤先生が経験された猛禽類を含む野生鳥類を含む臨床医療と感染症防疫についての概要紹介とともに有効な対策について講じて頂く。この講義は博士課程の院生授業ではあるが、鳥類医学や飼育（野生や動物園含む）に興味を有する学部生・一般にも公開することとした。奮ってご参加頂きたい。以上

国内でただ一人、猛禽類専門の開業医 齊藤 慶輔さん

ワシたちは群れずに、自分の命を自分でつないでいる

絶滅危惧種。「なぜ」の裏に人間の責任があることを考えて

オジロワシ、オオワシ いずれも国の天然記念物で絶滅危惧種。大学が渡り鳥で道東を中心にしたオジロワシは約500-800羽、オオワシは約1400-1700羽が絶滅を懸念。環境省によると、2013年度に同省が設置したオジロワシオオワシセンターで回収したオオワシの雛は、エシカカの卵を食べてしまったと推定された雛が7羽、シカの糞尿に付いた細菌を飲み込んだ雛が5羽、風車との衝突、網電死がそれぞれ1羽など。

オジロワシとオオワシの数の推移

年	オジロワシ	オオワシ
2004	45	45
2005	45	45
2006	45	45
2007	45	45
2008	45	45
2009	45	45
2010	45	45
2011	45	45
2012	45	45
2013	45	45

連絡先 酪農学園大学 獣医学群/
兼 同大学大学院 獣医学研究科 博士課程
教授 浅川満彦 askam@rakuno.ac.jp
教授 遠藤大二